



2023年7月31日
株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース第81号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。今週のカカオニュースを配信させていただきます。

1. カカオ、次の収穫への懸念の中、供給逼迫で上げ幅を拡大(7/29)

西アフリカの大雨が来シーズンの生産を脅かす中、カカオ価格は供給逼迫で2週目の上昇に向かった。9月渡しの先物は1.1%高の1トン2711ポンドとなり、週間の上げ幅は約5%に達した。コートジボワールとガーナでの不本意な収穫を受け、スポット市場では供給が逼迫している。

ガーナ・ココア・マーケティング・カンパニーUKのフアド・モハメッド・アブバカル代表によると、トレーダーはまた、8月に向かう気温の低下と湿った状況が相まって、今後のメインクroppに影響を及ぼす病気の蔓延を悪化させる可能性を懸念している。

「カカオの現物が不足しています」「誰もが十分な量を手に入れるわけではなく、価格が高騰しているため、カカオやチョコレートの工場のほとんどは継続的に価格を上げるでしょう」

最近、アジア、ヨーロッパ、北米の工場で豆の粉碎が減速しているのは、需要が減退しているのではなく、在庫が逼迫していることを示している、とアブバカル氏は付け加えた。



2. カカオ価格、12年ぶりの高値 西アフリカの供給懸念強まる(7/27)

- ・コートジボワール、雨と病気で供給停止に追い込まれる
- ・予想を上回るリンツの収益は業界の健全性を示唆

カカオ先物相場は、供給逼迫への懸念とチョコレートメーカー、リンツ&シュプルングリ社の好業績を好感し、ニューヨークでは過去12年間で最高値、ロンドンでは過去最高値に迫る水準まで急騰した。

コートジボワールが10月からのメインクroppについて海外バイヤーへのフォワードセールを停止したため、2023-24年シーズンの供給可能性に対する懸念が高まっている。豪雨と洪水がコートジボワールの生産を脅かし、農家はまたブラックポッド等の病害と闘っている。

「コートジボワールとガーナの入荷は今年減少しているが、世界経済が回復するにつれ、需要は堅調に推移している」とプライス・グループのジャック・スコヴィル副社長は語る。「西アフリカは天候に恵まれず、最高の生産ができないため、農家は出荷できず、供給が逼迫している」



ADM インベスター・サービス・インターナショナルのアナリストは、コートジボワールの販売停止は、輸出可能な豆が少なくなっている原産国において、国内の粉砕の増加とも関連している可能性がある、とメモの中で述べている。

一方、スイスのチョコレートメーカー、リンツは2023年上半期に予想を上回る利益を計上し、通期の見通しを上方修正した。これは、観光業が回復し、消費者が高価なチョコレートを買求めるようになったため、業界が持ち直したことを示すものである。

しかし、同社は、「西アフリカの作柄が厳しく、予測不可能な状況」のため、豆の在庫を増やすために多くの費用を費やしたことを指摘した。リンツは、主にカカオと砂糖によるコストインフレが2024年まで続くと予想している。旺盛な需要と世界的な生産不足、コートジボワールとガーナの天候不順のリスクが、価格高騰の主な要因だと同社は述べた。

ロンドンのカカオ先物は今年25%近く急騰し、現在過去最高値付近で推移している。ニューヨークでは粗糖価格が23%以上上昇している。

3. アフリカのココア：コートジボワール、カメルーンで洪水が農業を混乱させる(7/24)

- ・コートジボワールの生産者、次回の収穫量に懸念を示す
- ・ガーナ、農薬散布の不足で生産高が脅かされる

大雨と洪水により、コートジボワールとカメルーンのカカオ生産者は農園の手入れができず、すでに10年以上ぶりの高値までカカオ価格を押し上げている供給懸念に拍車をかけている。

「世界最大のカカオ生産国であるコートジボワールの農家、ジャン・ゲヒ氏は、「農園へのアクセスはまだ困難です。「カカオの木がどうなっているかはおろか、農園で何が起きているのかもわかりません」。

この悪天候は、世界のカカオ在庫が過去30年間で最低となり、エルニーニョの天候パターンが世界を3年目の供給不足に陥れる恐れがある時に起こった。業界の指標であるロンドンで取引されるココア先物は、今年に入り23%急騰した。

コートジボワールの中央栽培地域の生産者は、これが10月に控えたメインクロップの収穫に影響することを恐れている。コートジボワールでは1年を通して2回のカカオを収穫している。小さい方のミッドクロップは4月から9月に収穫され、大きい方のメインクロップは10月から3月に収穫される。

世界第3位の生産国であるカメルーンでは、南西部で大雨による土砂崩れが発生し、カカオ農園や成熟したミッドクロップ・ポッドが破壊された。

世界第2位の生産国であるガーナにとって、生産高を脅かすのは、近隣諸国を襲った豪雨よりもむしろ、化学肥料や化学薬品の持続的な不足である。ガーナの南西部、コートジボワールとの国境に近い町ヤカセの農家長ジョンソン・メンサ氏は、「天候は良かったが、我々の不運は投入資材の不足、特に薬剤の散布不足だ」と語った。

ナイジェリアの他の地域では、雨と太陽が混在しているため、農家は主作物のシーズンに向けて農場に戻り、準備を進めている。ナイジェリア南西部、オヨ州の村オナ・アラで農場を経営するソロモン・オロモヨ氏は、「8月中旬から下旬には生花が実り始め、9月下旬には収穫が始まるでしょう」と語った。

4. ガーナ、480万ドルの炭素排出基金の受益者への払い出しを開始(7/25)

ガーナは世界銀行から480万ドル（約6.8億円）の支払いを受け、アフリカではモザンビークに次いで2カ国目となる、森林減少と森林劣化による排出削減のための国際金融機関の信託基金（通称REDD+プログラム）から支払いを受けた。

今年1月に受領したこの支払いは、ガーナが世界銀行と締結した排出削減支払協定（ERPA）に基づく4つの支払いのうちの最初のものであり、炭素クレジットに対する成果ベースの支払いに活用できる可能性を示すものである。ガーナは2019年に世界銀行と5年間のERPAを締結し、2024年末までに削減される1,000万トンのCO2排出量に対して最大5,000万ドルを受け取る資格を得た。このプログラムによって2019年だけで削減された二酸化炭素排出量は約973,000トンである。

西アフリカの7つのカカオ生産地域の1,400のコミュニティから24万人以上の農家が、直接支払いやコミュニティプロジェクトで炭素排出基金の恩恵を受けている。

世界銀行によると、ガーナの生物多様性と森林は、カカオ農法と持続不可能な伐採、小規模採掘によって圧迫されている。林業委員会とガーナ・ココボードは、気候変動に配慮したカカオ生産の促進を通じて、二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいる。

「持続可能であればあるほど、生計から得られるものも多くなります。私たちは、これが将来の投資家の信頼を高めることを期待しています」と、世界銀行の環境専門家、ダルシャニ・デ・シルバ氏は、7月20日にアシャンティ地方で開催された記念支払イベントで語った。

森林委員会の最高責任者であるジョン・アロテイは、ガーナ国民に対し、森林伐採と植林の推進要因を防ぐことで、このプログラムを支援するよう促した。

「必要なのは、森林破壊の要因である山火事や森林保護区への農業進出、カカオ農園での伐採を減らし、さらに植林を行うことです。少なくとも、1ヘクタールあたり最低18本の木を植えることを望んでいます」

5. ナイジェリア、エド州とアクワイボム州でカカオ価格が上昇(7/27)

エド州ではカカオ豆が1トン210万ナイジェリア・ナイラ（2,663ドル）で取引されていると、業界関係者が木曜日に述べた。

エド州は同国中西部で最大の生産地で、輸出グレードの高品質なカカオ豆は7月19日には1トン190万ナイジェリア・ナイラであったが、同州の悪天候が品不足を招き、価格を押し上げたこと、トレーダーのBoidun Oloko氏は語る。また、トレーダーのBassey Ekikere氏によると、南部地域のアクワイボム州では、カカオは1トン185万NGNで、水曜日の1キロ180万NGNから上昇した。

6. コートジボワール、7月17日～7月23日のカカオ入荷量は14,213トン(7/24)

政府のデータに詳しい人物によると、コートジボワールの生産者は先週、14,213トンのカカオを港に送った。10月1日にシーズンが始まってからの到着量は230万トンとなり、これは1年前の推定約240万トンと比べてやや少ない数字となっている。下記は今シーズンの大手各社の購入量をまとめたもの。

| 企業名 | 購入数量(トン) |
|---------------|-----------|
| Cargill units | 344,272 |
| Saco | 290,753 |
| Outspan/OCP | 254,498 |
| Touton | 137,092 |
| S3C | 135,282 |
| Others | 1,138,157 |
| Total | 2,300,054 |

7. ナイジェリアの6月ココア輸出、前年比8.5%減(7/28)

ナイジェリアの商都ラゴスのアパパ港で検査機関や船会社の関係筋がまとめたデータによると、カカオ豆の6月の輸出量は前年同月の1万3385トンから1万2245トンに減少した。

前月比の輸出量は5月の20,575トンと比較し40%減少した。

ナイジェリア・ココア協会会長のMufutau Abolarinwa氏によると、ミッドクローブの不作により農園から新規のカカオ豆の供給がないため、輸出業者の倉庫は在庫不足に陥っているという。

ナイジェリアの6月のカカオ輸出の68%はアジアに輸出され、マレーシアとインドネシアが主な輸出先であった。ヨーロッパは24%で、主にオランダ、スイス、エストニア、スペイン、ブルガリアに輸出された。

残りはカナダとアメリカである。

ココアバターは前年同月比7.6%減の878トンで、5月より12%減少した。

ココアバターの輸出先は主にドイツ、オランダ、エストニア、トルコ。

8. カメルーンの港でカカオ価格が上昇(7/27)

カメルーンの主要港ドゥアラでカカオの価格が上昇した。輸出業者はココア1キログラムに2,012CFAフラン(3.41ドル)を支払い、火曜日の1,947XAFから上昇した。農家やトレーダーによると、国内の農園での価格は、南西部では1キログラム1,300XAF、中部では1キログラム1,390XAFと横ばいであった。

9. 菓子大手の米ハーシー、4-6月期は増収増益(7/28)

菓子大手の米ハーシーが27日発表した2023年4-6月期(第2四半期)決算は、増収増益となった。純利益は4億0698万ドル(前年同期は3億1556万ドル)、1株利益は1.98ドル(同1.53ドル)に増加した。調整後の利益は1株当たり2.01ドルとなり、ファクトセットのまとめたアナリスト予想の1.91ドルを上回った。売上高は5%増の24億9000万ドルと、アナリスト予想の24億9800万ドルとほぼ同じだった。

10. 京都産業大で「サステナブルカカオ会議」(7/28)

- ・カカオから持続可能な社会を考える
- ・社会課題を若い世代と共有

チョコレート原料のカカオから持続可能(サステナブル)な社会を考える「日本サステナブルカカオ協会」がこのほど、京都産業大学(京都市北区)で「第1回サステナブルカカオ会議」を開催した。カカオ産業を巡っては、森林破壊や貧しい地域の子供が栽培に従事する児童労働などの社会課題が指摘されている。

食品大手の明治は今年2月、そうした課題を認識し解決に向けた行動を起こそうと同協会を設立。カカオ生産国のドミニカ共和国などの大使館や大学と連携し、活動を広げている。なかでも将来を支える若い世代とこの問題を共有し、社会を変えるムーブメントを起こしてもらいたいと、グリーライフスタイル（東京都新宿区）の江川嗣政社長の紹介で京産大での会議が企画された。

当日は同大の経営学部、現代社会学部、生命科学部など学部を超えた学生約110人が参加。黒坂光（あきら）学長のあいさつに続き、明治カカオマーケティング部よりカカオ産業が抱える課題にチョコ業界がどのような対応をしているかを説明した。続くディスカッションには4人の学生が参加し、カカオのサステナビリティ（持続可能性）の輪を広げていくにはどうしたらいいかを話し合った。学生からは、インスタグラムなどのSNSの活用やイベントへの出展といったアイデアのほか、経済的に余裕がない学生もサステナビリティに貢献できる方策として「必要最低限を買う」「持っているものを大切にする」などの意見も出た。

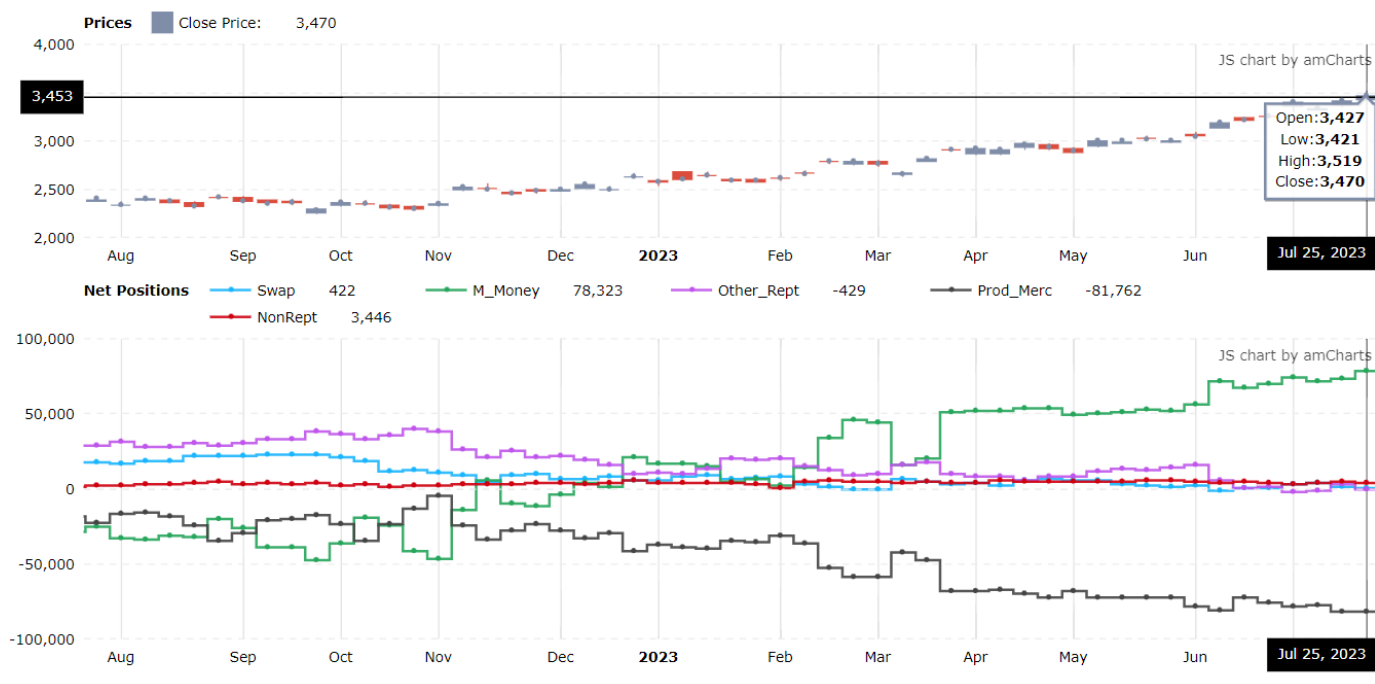
11. ファンド勢のNY先物は買い越しポジションが減少(7/29)

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋（Managed Money）は今週、純買い越しポジションを3,852ロット増加させ、78,397ロットとした。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、（今週で言えば、7月25日）の取引が含まれている。

- 純買い越し数量は過去3年でもっとも強気（多い）の数字。
- 総買い数量は **2,383ロット増加、127,112** となった。（3週ぶりの高い数字）
- 総売り数量は **1,469ロット減少し、48,715ロット** となった。
- 総売り数量は、過去5か月で1番少ない数字

参考分析資料；過去1年のNY市場の実需家VS投機筋のポジションと相場価格

Prices & Net Positions



黒線・・・カカオ磨砕業者やチョコレート製造会社など実需家

緑・・・ヘッジファンドなどの資金運用者

水色・・・投資銀行などスワップディーラー

12. ファンド勢のLDN先物は純買い越しポジション再び増加。(7/29)

ロンドンのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、先週の買い越しポジションを 79,015 ロット増やし、79,015 ロットとした。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週の数字で言えば、7月25日)の取引が含まれている。

- 総買い数量は今週 4917 ロット増加し、83,487 ロットとなった。
- 総売り数量は今週 428 ロット減少し、4,472 ロットとなった。

参考) ロンドン市場の主要なプレイヤーのポジション状況

Commitments of Traders Futures and Options

ICE Futures Europe

25/07/2023

| MktDate | OI | Producer/Merchant/ Processor/User | | Swap Dealers | | | Managed Money | | |
|--|--------|--------------------------------------|--------|--------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|
| | | Long | Short | Long | Short | Spreading | Long | Short | Spreading |
| 25/07/2023 | 471970 | 238983 | 287359 | 19588 | 66166 | 41657 | 83487 | 4472 | 20676 |
| Percent of Open Interest Represented by each Category of Trader | | | | | | | | | |
| 25/07/2023 | 100% | 50.6% | 60.9% | 4.2% | 14.0% | 8.8% | 17.7% | 0.9% | 4.4% |
| Number of Traders in Each Category | | | | | | | | | |
| 25/07/2023 | 170 | 45 | 41 | 13 | 11 | 15 | 46 | 8 | 22 |

*本レポートの内容は、作者の個人的意見や英語での情報ソースを翻訳したものであり、目的はカカオ、チョコレート全般の情報をシェアする事であり、一切、お客様や読者様への投資の判断を促すものではございません。値決めやココアの投資に関する判断に関する助言とは異なります。カカオトレードにおける判断、意思決定は各法人様、個人様の責任において実行していただきますようお願い申し上げます。